

学校の取組

中茶安別小中学校

本校ならではの、特色ある伝統的な「学校林活動」について、紹介します。

■歴史の重みを感じて

学校林活動は、昭和11年にトド松600本と植樹したことから始まり、今年で82年目を迎えました。この歴史を守るため、約9・7ヘクタールの学校林でさまざまな体験を行っているのですが、この活動のシンボルとして、平成23年にツリーハウスを建設しました。本校では以前から小学1年から中学3年まで9年間「今の私たちがそれぞれの学年で、学校林を守るためにで

きることは何か？」をテーマに追究しています。



■地域の良さを再発見

これらの学校林活動をとおり、児童生徒が、自分たちの住んでいる地域に誇りをもち、地域の良さを再発見し、その素晴らしさを感じとることができています。このことから「50年後の中茶安別は、こうなっていてほしい」という未来予想図を児童生徒が考え、その願いを大切にする教育活動を展開していきます。



■四季を通しての活動

小中全校一斉の学校林活動が、春・夏・秋の年3回、3時間ずつあります。春は樹木雪よけの冬囲い外し・夏は樹木伐採現場の見学・秋は落葉を拾ってのゲームなどに取り組みました。小中縦割り班を構成し、中学生がしっかりと小学生に教える伝統が根付いています。ほかに、小学生は野草やキノコの観察・学校林に住んでいる動植物の調査・ツリーイングの木登り体験・冬にスノーシューを履いてのスノートレッキングを行い、中学生は、学校林近くの川で行う水質調査・その川の downstream 行うカヌー学習・学校林での植樹体験などに取り組んでいます。



郷土館
通信

はく製さんから
こんにちは！

Vol. 6

郷土館で保管している、はく製資料を紹介します。



今回は、希少なヤマヒバリのはく製を紹介いたします。このヤマヒバリは1995年11月25日に、塘路の青少年体育センター（ピルカトウロの位置にあった）建物の窓で激突死した個体です。ヤマヒバリはシベリアで分布、繁殖し、冬季に中国や朝鮮半島へ渡る冬鳥で、まれに日本へ迷い込むことがあります。当時は道東で初の発見例として、北海道新聞で報道されました。その後貴重な個体として、飯島一雄氏によりはく製とされ、現在当館にて保管しています。

標茶町郷土館 ☎487-2332

図書館だより

☎485-2300

■開館時間■

火～木曜日：午前10時～午後6時
金 曜 日：午前10時～午後9時
土・日曜日：午前10時～午後4時
休 館 日：月曜日・祝日

人形劇

■日時／12月2日(出)、午前10時30分～

退職された保育士や教員の方々による人形劇「ぶたのたね」や大型紙芝居「けんかやま」を演じます。

クリスマスの絵本展

■期間／12月1～24日

クリスマスをテーマにした絵本はととてもたくさんあります。定番の絵本や、ちょっと変わったサンタさんの絵本、色んなクリスマスをお楽しみください。

「郷土史本」配布のお知らせ

釧路新聞に掲載された「しべちゃ歴史を歩く地名を巡る」が、1冊の本にまとまりました。図書館でも閲覧・貸し出し可能ですが、この本を配布しています。希望者は12月15日(金)までに図書館に申し込みください。

※申込多数の場合は抽選となります。

投稿お待ちしております

掲載希望の方は、イラスト・詩・絵画・写真ほか何でも結構ですの
で、作品に住所・氏名を記入の上、
次のところまでお寄せください。
〒088-2312 川上4丁目2番地
役場企画財政課地域振興係
「みんなの作品展コーナー」

みんなの 作品展



文芸作品

俳句 (標茶菱の実吟社)

- 病む足を労わる一歩年の暮
- 新米の届きて送る柳葉魚かな

石川 陽三
千葉 碧水

短歌 (自生林短歌会)

- 騒げどもわれは我なり変らざり
仔牛撫でれば我を鳴き待つ
- 北鮮に娘奪われ四十年
命の限り慟哭の父母
- 新米のにぎり頬張るおいしさよ
実りの秋の平和の一時

安藤 正男
佐藤 教子
山崎 博子

絵手紙の会



和田レイ子さん (開 運) の作品



石栗征剛さん (桜) の作品

写真投稿作品



匿名希望さんの作品